

平成28年度 国際高校防災新聞 第1号

2

津波に備える

将来の災害について、とくに脅威とされているのが、南海トラフ巨大地震（以下南海地震）です。南海トラフとは、四国の南の海底にある水深4,000m級の深い溝（トラフ）のことで、これを震源とする大きな地震の発生の可能性は、30年以内で50～60%、50年以内では80～90%といわれています。一昨年兵庫県は、地震が起きた場合、最悪のケースで死者が2万9100人に上るとする被害想定を発表しました。神戸市で9344人、尼崎市で8343人、西宮市で6974人など被害は極めて甚大で、津波による死者が96%を占め、建物の全半壊は21万4400棟とされています。

本校は安全でしょうか。南海地震発生時は1分以上の長い揺れが予想されます。津波が発生した場合、阪神沿岸部には最大5.0mの津波が110分で到達することが想定されています。本校のグラウンドは海拔4m、(防潮堤の高さは5m)、教室棟3階の高さは12m(海拔16m)あります。また、本校の校舎は耐震補強済のため、建物の倒壊はないと考えられています(窓ガラスや壁の破損はありえる)。その点では、国際高校は安全と考えられますが、これも、地震・津波の規模が想定内に収まった場合のことです。年明け1月10日に行われる校内防災避難訓練を通して、いざという時の備えをしておきましょう。

(参考資料： 神戸新聞NEXT (2014.6.3付)、 兵庫県教育委員会「明日に生きる」)

(1)

	90 3 5

(2)

()	

(3) 2

1 2 4 HR 2 2 3 HR 3 3 4 2 3	

(4)

(5)

3 2	

1月10日（火）の始業式の日には地震・津波を想定した防災避難訓練を実施します。教室に掲示されているシェイクアウト訓練の図を確認しておいてください。

神戸市中央区 編

【想定場面】

日時 20XX年12月××日(×) 20:00

場所 神戸市中央区 地下街

人数 4人(家族:父・母・妹・あなた)

神戸市中央区



その日の夜は気温が5～6度。地上では冷たい風が吹き、店の看板もゆらゆらと揺れていた。ホテルなどの高層ビルの建物には美しいイルミネーションが輝いている。

また、駅周辺は、勤めを終え帰宅途中の会社員や買い物客などであふれ、道路では車の渋滞が起きている。

あなたは家族と食事を楽しみ、地下街を歩いていた。近々クリスマスということもあり、

地下街の店は多くの買い物客で賑わっている。

ある店のショーウィンドウをのぞき込んでいるとき、あなたの携帯電話が鳴り出した。

同時に父親の携帯電話も鳴り始めた。あなたが自分の携帯電話を確認すると、そこには「緊急地震速報」の受信表示があった。

その時、

①突然、あなたは小刻みな小さな揺れを感じた。

②10秒後、あなたは身体を激しく押されるような揺れに襲われ、

突然地下街が暗くなり、息をふりかき出す始末。

③そして、揺れは3分ほど続いた。



考えてみよう

- (1) 想定場面の①～②では、あなたは命を守るためにどのような行動をとりますか。また、そのような行動をとるのはどうしてですか。
- (2) 想定場面の③では、あなたはその後の危険を回避するために、どのような行動をとりますか。また、そのような行動をとるのはどうしてですか。
- (3) さらに、以下のような状況について考えてみましょう。
 - 地下街で避難している人たちの様子を想像してみましょう。
 - 地上の様子はどのようになっていると考えられますか。
 - 10分後、あなたは何をしていますか。
 - 30分後、あなたは何をしていますか。

「その時」 わたしは。。。。

私が携帯電話の「緊急地震速報」を確認していると、カタカタと小さな揺れを感じました。

「地震だ!」

私は叫び、妹を抱きかかえてショーウィンドウから引き離しました。多くの買い物客は、通路の比較的広い場所に移り、姿勢を低くしていました。私たちも通路の中央あたりで姿勢を低くし、私は妹を抱きかかえたまま持っていたバッグで頭を守りました。激しい揺れの中、あちらこちらで物が落ちる音や、ガラスの割れる音が聞こえました。

その時停電が起これ、あたりが真っ暗になると、地下街のあちらこちらで大きな悲鳴が響き渡りました。

「お父さん、お母さん!」

近くで妹が泣きながら叫びました。私は妹の手をきつく握って言いました。

「お姉ちゃんはどこにいるよ。お父さん、お母さん、大丈夫?」

暗闇の中へ声をかけると、父の声が返ってきました。

「大丈夫だ。むやみに動くんじゃないよ。」

しばらくすると、ところどころに非常照明がつき、あたりの様子がぼんやりと見えました。通路には割れたガラスが散らばり、額から血を流している人もいます。どこからか煙の臭いがしました。

買い物客は一か所に殺到することなく、近くにある非常口へ向かって移動し始めました。その時、一軒の店から大量の煙が通路へ流れ出てきました。近くにいた人たちから悲鳴が上がり、非常口では一部の人がパニックになっています。私たちは別の非常口から地上に上がりました。

道路にはビルの壁の一部が落下したり、割れた窓ガラスや看板が散乱しています。地上は地下より揺れが大きいように思えました。被害の状況は地下よりもひどく、あちらこちらで空には煙が立ち上り、道路では避難しようとする車が殺到し、動きが取れなくなっています。サイレンとクラクションが鳴り響き、街中が騒然としていました。

「津波が来るかもしれない。車は置いて行こう。」

父が言い、私たちは高台の方へ急いで避難を始めました。人々は指定された避難ビルや高台をめざし、暗闇の中を迫り来る津波に不安が高まっていた。



想定される被害状況

ゆっくりと長く揺れる長周期地震動で、高層ビルが数分間にわたってしなり続ける。固定されていない家具や食器棚が倒れ、ガラスが飛び散る。オフィスでは机やコピー機が凶器となり人に襲いかかる。南海トラフ付近で発生した津波は、兵庫県最南端の南あわじ市を襲った後、紀淡海峡を抜け、神戸市に近づいている。地震発生から約1時間半後、津波の第1波が神戸市中央区を襲い、津波の高さは最大4mに達する。津波は街をのみ込み、神戸市中央区の浸水面積は約3.1km²、沿岸部を中心に兵庫県内の浸水面積は18.9km²に達するとされている。